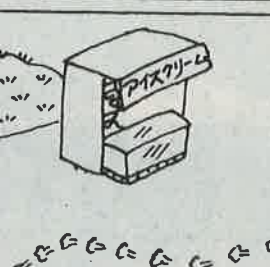
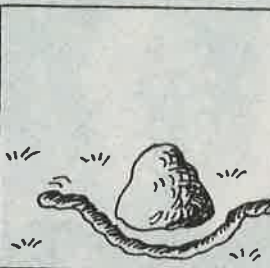
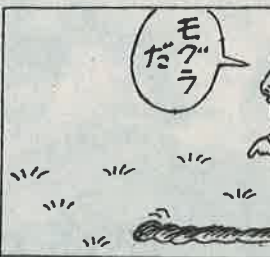




きまぎのぼる



# 高齢者施設でオンライン面会

## 能代山本

特別養護老人ホームなど能代山本の高齢者が入所・居住する介護施設は、新型コロナウイルス感染拡大防止のためとして、面会禁止が続いている。昨冬のインフルエンザの流行開始に合わせて面会が制限されてからすでに約5カ月が経過。新型コロナウイルス感染の終息が見通せない状況下、オンライン面会を試みる施設も現れている。

# 「元気だと分かった」

## 画面越しでも

抵抗力の弱い高齢者の命を預かる各介護施設は、日常的に感染症対策を講じるのが通常だが、インフルエンザの流行期になると、施設内へのウイルス持ち込みを防ぐため、面会を制限したり禁止することが多い。加えて今年は、インフルエンザの流行が終わらないうちに、新型コロナウイルス感染防止対策が始まり、面会制限・禁止はエンドレス状態に陥っている。

能代保健所管内は昨年12月12日にインフルエンザ注意報が発令。能代市落合のショートステイたんぼぼ(定員27人)は翌13日から面会制限を強化、施設内で直接会う面会は禁止した。2月中旬以降は新型コロナウイルス対策を開始、現在も面会禁止が続いている。

終わりが見えない状態の中、同施設の経営会社の川尻信夫代表取締役が、ICT

抵抗力の弱い高齢者の命を預かる各介護施設は、日常的に感染症対策を講じるのが通常だが、インフルエンザの流行期になると、施設内へのウイルス持ち込みを防ぐため、面会を制限したり禁止することが多い。加えて今年は、インフルエンザの流行が終わらないうちに、新型コロナウイルス感染防止対策が始まり、面会制限・禁止はエンドレス状態に陥っている。

能代保健所管内は昨年12月12日にインフルエンザ注意報が発令。能代市落合のショートステイたんぼぼ(定員27人)は翌13日から面会制限を強化、施設内で直接会う面会は禁止した。2月中旬以降は新型コロナウイルス対策を開始、現在も面会禁止が続いている。

終わりが見えない状態の中、同施設の経営会社の川尻信夫代表取締役が、ICT

5カ月ぶりに夫と「顔」を合わせて話をする女性(写真はショートステイたんぼぼ提供)



# 家族の顔見られない コロナで長期化

たので良かった」と安心した様子。昨年12月に面会禁止になるまでは居室で会っていたといい、「こうも(面会禁止が)長くなるとは。電話で話していたけれど、顔が見えない。オンライン面会をまた利用したい。週1回、5分でも10分でも話ができれば」と話した。

短期入所施設だが、数年に及ぶロングステイの利用者も少なくなく、介護度は平均3・8で、介護度4以上が半数を占める。川尻代表取締役は「入所している夫は、手を振って、にこっとして、いい表情をしていた。やはり家族の顔を見ると違う。顔を見たい」と、声を聞くことを一緒に行うことが大きい」と、画面越しであっても対面する効果の大きさを語った。

# 「あの日」から37年

## あす県民防災の日

## 献花式や 防災訓練は延期・中止

の埋め立て工事に従事し津波に巻き込まれた作業員や潜水士らを供養する。

また、能代署は大規模地震の発生を想定した災害警備訓練を実施。災害展開員